

Monthly Report

Vol.72 / 2012 Apr.

仙台大学は今年、開学45周年



東北・北海道唯一の体育学部（体育学科）を有する四年制大学として1967年（昭和42年）に定員100名で開学した本学は、平成7年に健康福祉学科、平成10年に大学院、平成15年に運動栄養学科、平成19年にスポーツ情報マスメディア学科、平成23年に現代武道学科を開設し、学生数は2000名を越す大学へと成長し、今年で開学45周年を迎えました。



目次

仙台大学開学45周年	1
仙台大学入学式 FDセミナー	2
青海省から2名留学 台東大学短期留学	3
柴田さくらマラソン ジュニア新体操開講	4
こども未来基金に寄付 学生が交通安全を呼びかけ	5
ベガルタ仙台ホームスタジアムに看板設置	6
お花見レガッタ	7

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございま
したら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

平成24年度 仙台大学入学式



4月7日（土）に本学第5体育館において第46回体育学部、第15回大学院入学式を挙りました。朴澤学長より「体育学科333名、健康福祉学科111名、運動栄養学科81名スポーツ情報マスメディア学科44名、現代武道学科37名、編入生6名、大学院19名、計631名の入学を許可します」との入学許可告知がなされた後、入学者を代表して、今井

優美さん(運動栄養学科／多賀城高卒)が「体育・スポーツ・健康に関わる諸科学を探究し、これからの時代の担い手となるよう身体を鍛え、教養を深め、心を磨き、豊かな学生生活を送るように努力してまいります。」と力強く宣誓しました。

<平成24年度入学者>

体育学部612名

- ・体育学科333名、編入学3名
- ・健康福祉学科111名、編入学3名
- ・運動栄養学科81名
- ・スポーツ情報マスメディア学科44名
- ・現代武道学科37名

大学院19名

- ・2年コース16名
- ・1年コース3名

平成24年度新任教員スタートアップ支援FDセミナー



4月10日（火）に教育改善企画委員会が主催する「平成24年度新任教員スタートアップ支援FDセミナー」がA棟大会議室で開催されました。このセミナーは新任の先生方が仙台大学に早く馴染んでいただくために、大学の教学経営や3つのポリシー、CAP制とGPA、新カリキュラム教養教育、諸手続きの仕方などを各担当教職員より説明するものです。コミュニケーションゲームやフリートークの時間もあり、セミナーに参加された先生方と新任の先生方の中で、色々なコミュニケーションが図られました。

留学生歓迎お花見会



4月19日（木）に船岡城址公園において学生支援センター主催の留学生歓迎お花見会が行われ、教職員・留学生・学生合わせて約50名が参加しました。今年は例年よりも開花が遅く、当日は咲きはじめてということで花見客もまばらな状況でしたが、日本独自の慣習である花見を通し、留学生との親睦が深められました。

写真提供：学生支援室

大学院研究生として青海省体育科学研究所から2名が留学



4月11日に本学が高地トレーニングの研究等で国際交流協定を結んでいる中国青海省体育科学研究所職員の蘇青青さん（写真：中左）と杜霞さん（中右）が大学院研究生として学ぶため来学し朴澤学長に挨拶を行いました。両名は語学を1年間学んだ後、平成25年4月から本学大学院（1年コース）に入学する予定となっています。同研究所からは昨年来日した祁継良さんが今年4月から学院（1年コース）で学んでおり、学術交流も順調に進捗しています。

台東大学(台湾)短期留学プログラム



写真提供：佐藤志帆さん、小林真衣さん

3月4日 - 29日、国際交流協定を結んでいる台東大学への短期留学プログラムに佐藤志帆さん（健康福祉学科4年）と小林真衣さん（体育学科3年）が参加しました。

小林真衣さん（体育3年／名取北高卒）

台東大学からダブルディグリー制度を使って仙台大に留学した劉姿伶さん、曾鈺倫さん、盧彦中さんから台東大学ではアウトドアの授業が多いことなどを聞くうちに台湾への興味が強くなりました。また、大学で語学支援に参加しているので中国語を学びたいとの思いもあり短期留学への参加を希望しました。

台東大学では佐藤さんと大学寮に入り、サーフィンやダイビング、空中探索などの実技の授業に参加したほか、台湾観光として野球記念館や台湾原住民の一つである布農族の方との交流、小学校訪問などをしました。また、台湾滞在中に帯同してくれた盧彦中さんとともに台湾1周旅行も敢行し、台湾の文化に満喫することができました。今回の短期留学で中国語を学んできましたが、使わないとすぐに忘れてしまうのでもっと勉強をして、仙台大に来る留学生たちと会話ができるぐらいになりたいです。

第8回 柴田さくらマラソン

～学生110名がボランティアとして大会をサポート～



4月21日（土）に「第8回柴田さくらマラソン（愛称：一目千本さくらマラソン2012）」が陸上

自衛隊船岡駐屯地を会場に開催され、本学からも大会運営に仲野教授、柴田助教はじめ学生約110名がボランティアとして、コース誘導や準備運動指導、給水、総合受付等として係わりました。「柴田さくらマラソン」は2001年から柴田町主催で毎年開催されてきましたが、第6回大会を最後に休止となっていました。それを、住民有志で結成する実行委員会が柴田町役場や船岡駐屯地に交渉を行い開催までこぎつけました。残念なことに昨年3月に発生した東日本大震災により第7回大会は中止となりましたが、今大会は天候にも恵まれ、沖縄県や北海道など全国から約2000名が参加する一大イベントとなりました。

平成24年度 ジュニア新体操教室が開講



4月25日（水）に平成24年度の仙台大学開放講座「ジュニア新体操教室」開校式が第4体育館ダ

ンス・新体操場で開催され、3歳から11歳までの受講生72名とその保護者に参加いただきました。開校式では新体操競技部員の司会のもと、大学を代表して事業戦略室の半澤担当課長から挨拶した後、新体操競技部の大山部長はじめ講師陣が紹介されました。

開講式終了後には第1回目の教室が行われ、子供たちの元気な歓声と笑顔が溢れていました。ジュニア新体操教室は監督の河野新助手、コーチのエレナ氏、新体操競技部部員の指導のもと、毎週水曜日に開講していきます。



第6回しばたまち白石川さくら回廊ボート体験会



4月14日（土）に本学漕艇部が中心となって「第6回しばたまち白石川さくら回廊ボート体験会」を北船岡白石川河川敷で開催し、柴田町内の中学・高校生40名に参加いただきました。例年であればこの時期は白石川堤の桜が咲き誇り、川面から桜並木を眺めながらの体験会となります。今年は例年よりも開花が遅れたため桜はありませんでしたが、参加者たちは普段体験できないボートの魅力と部員たちの指導に感心していました。



NPO法人「東日本大震災子ども未来基金」へ寄付



本学では、東日本大震災で親をなくしたり、親が重度の障害を負ったりした子ども達に学資支援を行うNPO法人「東日本大震災子ども未来基金（理事長：高成田享氏）」に、学内で集めた338,814円を寄付しました。このお金は、昨年10月に開催した「東北子ども博」のイベント売上金と商工会協賛金、大学祭でのチャリティーバザール売上金と募金、学内ボランティアセンターでのカウンター募金などで集めたものです。

4月27日（金）には本学学長室において贈呈式が行われ、仙台大学災害ボランティア組織の責任者である山谷教授より高成田理事長に目録を贈呈し、高成田理事長からは感謝状が授与されました。

学生が交通安全を呼びかけ

～平成24年度春の交通安全週間～



4月6日(金)～15日(日)の10日間、春の交通安全運動が実施されました。6日には柔道部女子25名、女子バレーボール部、学友会4名の総勢43名

の学生が船岡駅前で行われた交通安全呼びかけ運動に参加し、柴田町町長、大河原警察署長のあいさつに続いて一斉にチラシを配布するなどして交通安全を呼びかけました。

今回の運動では、子どもと高齢者の交通事故防止を基本とし、特に（1）自転車の安全利用の推進、（2）全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底、（3）飲酒運転の根絶が重点項目におかれましては。

学生に交通安全への注意を促すとともに、教職員も気を引き締め交通安全遵守に努めましょう。



「体育施設管理士」認定証授与式



4月26日（木）にA棟大会議室において「体育施設管理士」の認定証授与式があり、第6回仙台大学体育施設管理士資格認定試験に合格した48名に朴澤学長から認定証が授与されました。体育施設管理士とは、（財）日本体育施設協会が付与する、体育施設の維持管理や運営に必要な知識・技能を認定する資格です。式では朴澤学長より「資格を取ることよりも、その資格をどう生かすかが大事。この資格をそれぞれの職場で有効活用してほしい」と激励されました。

柴山一仁先生 柴田町住民の心の温かさに感謝



加納さんの奥様とお孫さんの佐間りつき君

大学近隣に住む加納宅に、4月に着任した柴山助教が約2週間、居候させていただき、たいへんお世話になりました。たいへん心温まる事案でしたので、ご紹介致します。

柴山助教

宮城県は東日本大震災後に津波の被害を受けた方々が内地のアパートを間借りしているため、空いている物件が見つからず、採用通知をいただ

てからアパートを探すのが大変でした。ようやく見つけたアパートも入居できるのは4月中旬からということで、3月下旬に大学に電話で4月中旬までの期間を過ごす場所がないか相談させていただきました。

庶務課の方のご尽力により、大学近隣の加納さん宅に4月1日から2週間ほど居候させていただけることとなりました。はじめは2階の一室に泊めていただくだけのお話でしたが、奥様がたいへん面倒見の良い優しい方で、3日目ぐらいから朝・夕飯を、4日目からはお風呂も、1週間後にはお酒までいただきました。居候させていただくだけでもありがたいのに、最高のおもてなしにあずかり、たいへんありがたかったです。

宮城県に来てまだ間もないですが、加納さんのような人にも会えましたし、東北の方たちは関東地区よりも譲り合いの精神があるように感じ、風土的にも親切な人が多い印象を受けています。

加納さんご夫妻には2週間もお世話になり感謝の念でいっぱいです。大学から近いので、今後も時々お菓子でも持って顔を出して交流できればと考えています。

創立45周年記念事業としてベガルタ仙台ホームスタジアムに看板設置



開学45周年記念事業の一環として、サッカーJ1ベガルタ仙台のホームグラウンドであるユアテックスタジアム仙台に本学の看板を掲出しました（窓口：事業戦略室）。これまで固定看板を設置しておりましたが、今回の看板はデジタル画像に映し出す仕様で、文字が前後左右に動く、たいへん目立つ看板です。ベガルタ仙台を応援の際には是非、ご覧下さい。

J1ベガルタ仙台・奥埜博亮選手からユニフォーム寄贈



今シーズンJ1ベガルタ仙台に入団した奥埜博亮さん（平成23年度卒）から大学にユニフォームを寄贈いただきました。特別指定選手として在学中に着用していた背番号35のユニフォームです。体操の植松鉦治選手（KONAMI）や柔道の田中美衣選手（了徳寺学園職員）のユニフォームとともに学長室に展示してありますので是非、ご覧下さい。

お花見レガッタ ～ボートシーズン開幕～



※写真提供：石森職員

4月1、2日にボートのシーズン幕開けとなる「お花見レガッタ」が埼玉県戸田市で開催されました。この大会に本学からは、男子エイト、女子

舵手つきクォドルブルの2種目にエントリーし、女子クォドルブルが優勝、男子エイトは6位という成績を収めました。第一日目は悪天候のためレースが中止となるアクシデントもありましたが、学生はしっかりと戦い、今年度の良いスタートを切りました。今回のレースにより、冬季のトレーニングの成果を実感するとともに、各種の課題も明確になったようです。

今年こそチーム最大の目標である「インカレ・全日本選手権」での日本一を果たしていただけることでしょう。